

間島秀徳——Kinesis 水の森/天地無常の彼方へ

Hidenori MAJIMA: Kinesis, Water Forest



図版 1.『間島秀徳——Kinesis 水の森/天地無常の彼方へ』展覧会ヴィジュアル

会期：

2026年11月20日(金)

— 12月19日(土)

会場：

武蔵野美術大学美術館
展示室3

時間：10:00–18:00

(土曜日、祝日は10:00–17:00)

休館日：日曜日

入館料：無料

このたび武蔵野美術大学 美術館・図書館では、「武蔵野美術大学教授退任記念 間島秀徳——Kinesis 水の森/天地無常の彼方へ」を開催いたします。

現代日本画を代表する画家の一人である間島秀徳は、1980年代後半より一貫して「水」を主題として制作を続けてきました。日本画の伝統的な素材や技法を礎としながら、水の流れや重力を制作に取り込み、独自の絵画表現を探究しています。

本展では、ギリシア語で「運動」「変化」を意味する〈Kinesis^{キネシス}〉シリーズを中心に、1980年代後半から90年代にかけて制作された〈Untitled〉〈Water Works〉などの初期作品から最新作までを紹介します。

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館
協力：武蔵野美術大学日本画学科研究室

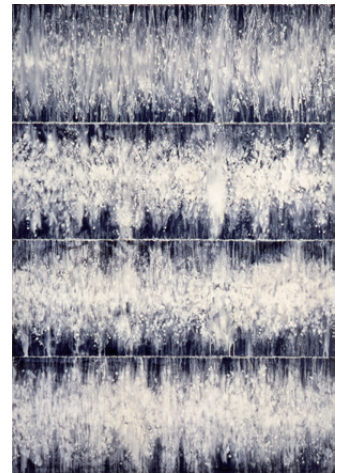
約40年にわたり「水」という主題に向き合い続けてきた間島秀徳の創作の軌跡をたどり、その表現の変遷と現在地を展望します。

■本展の見どころ

◆水の動きを絵画に取り込む

間島秀徳の作品は、筆によって形態を描くのではなく、墨や顔料を水の動きに委ね、その流れや重なりによって生じる痕跡を画面上に定着させることで生み出されます。鮮やかな青や墨によるモノクロームを基調とした画面には、海や雲、大気、地層などを思わせる多様なイメージが立ち現れます。

本展では、水とともに流れる大理石粉の痕跡を画面上に定着させた《Untitled》(1993年・図版2.)を起点に、〈Water Works〉から〈Kinesis〉シリーズへと至る作品を紹介します。水の動きから生まれる痕跡が、いかに独自の絵画表現へと展開していったのかをたどります。



図版 2.
《Untitled》1993 年、パネル・雲肌麻紙・水・墨・アクリル・顔料・膠、260.0×180.0cm、練馬区立美術館蔵

◆「震災三部作」が示す自然と人間への問い

東日本大震災を契機として制作された《Kinesis No.511(requiem)》(図版3.)、《Kinesis No.621(seamount)》(図版4.)、《Kinesis No.705(jackknife)》(図版5.)の「震災三部作」を一堂に展示します。

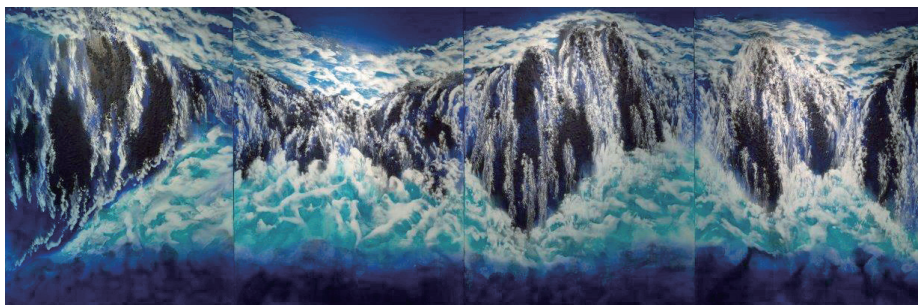
自然の力と人間の営みをめぐる問いを背景に制作されたこれらの作品は、間島の制作における重要な転換点となったものです。三作品を並べて展示することで、〈Kinesis〉シリーズにおける表現の広がり、自然に向き合う間島の眼差しを浮かび上がらせます。



図版 3.
《Kinesis No.511(requiem)》2012 年
パネル・麻紙・水・墨・アクリル・顔料・樹脂膠、225.0×680.0cm、作家蔵
撮影：飯村昭彦



図版 4.
《Kinesis No.621(seamount)》2014 年
パネル・麻紙・水・墨・アクリル・顔料・樹脂膠、225.0×680.0cm、作家蔵
撮影：飯村昭彦



図版 5.
《Kinesis No.705(jackknife)》2017 年
パネル・麻紙・水・墨・アクリル・顔料・樹脂膠、225.0×680.0cm、作家蔵
撮影：飯村昭彦

◆大型作品が生み出す「水」の世界

会場には大型作品25点が並びます。画面いっぱいに広がる色彩や、墨・顔料・水・重力によって生まれた複雑な痕跡、幾重にも重なる質感を間近に見ることで、絵画の中に刻まれた水の動きや時間の感覚に触れることができます。

大画面と向き合うなかで、水の流れから生まれる偶然性と必然性の交錯、そして身体感覚に訴えかける圧倒的なスケールを体感いただけます。

図版 6.

[手前]《Kinesis No.478(climbers eye)》2011年、パネル・麻紙・水・墨・アクリル・顔料・樹脂膠、250.0×直径115.0cm
[奥]《Kinesis No.479(divers eye)》2011年、パネル・麻紙・水・墨・アクリル・顔料・樹脂膠、250.0×直径115.0cm
ともに作家蔵〔香染美術（2011年）での展示風景〕撮影：飯村昭彦

図版 7.

[壁面]（3点共通）《Untitled》1992年、パネル・雲肌麻紙・水・墨・アクリル・顔料・膠、180.0×150.0cm
[床置き]《Untitled No.4》1995年、パネル・綿・アクリル・溶岩・顔料・膠、各100.0×100.0×20.5cm（4点組）
ともに作家蔵〔茨城県天心記念五浦美術館（2023年）での展示風景〕撮影：飯村昭彦

図版 8.

[天井]《Water Works No.29》2000年、パネル・麻紙・水・墨・アクリル・顔料・樹脂膠、直径180.0cm
[台座上]《Kinesis No.215》2004年、パネル・麻紙・水・墨・アクリル・顔料・樹脂膠、直径200.0cm
ともに作家蔵〔茨城県天心記念五浦美術館（2023年）での展示風景〕撮影：飯村昭彦



図版 6.



図版 7.



図版 8.



図版 9. 《Kinesis No.699(cosmic flow)》2017年
パネル・麻紙・水・墨・アクリル・顔料・樹脂膠、140.5×600.0cm、作家蔵、撮影：飯村昭彦

■関連イベント

特別対談

日時：11月23日(月・祝)16時30分–18時

出演：天野一夫(美術評論家・美術史家)×間島秀徳

会場：美術館ホール

入場無料／先着順(予約不要)／直接会場へお越しください。

特別鼎談

日時：12月7日(月)16時30分–18時

出演：小金沢智(キュレーター／東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース准教授)×中村

ケンゴ(美術家)×間島秀徳

会場：美術館ホール

入場無料／先着順(予約不要)／直接会場へお越しください。

■作家略歴

間島 秀徳(まじま・ひでのり)

1960年茨城県生まれ。84年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業。86年同大学院美術研究科修士課程修了(稗田一穂に師事)。2000年文化庁在外研修員としてフィラデルフィア(Pennsylvania大学)、ニューヨークに1年間滞在。15～21年信州大学教育学部教授。21年より武蔵野美術大学造形学部日本画学科教授。

1988年ギャラリーなつか(東京)での初個展を皮切りに、個展を中心に作品を発表。93年「現代絵画の一断面―「日本画」を越えて」(東京都美術館)、97年「今日の日本画 第14回山種美術館賞展」(山種美術館)、98年「チバ・アート・ナウ'97―現代美術というジャンル」(佐倉市立美術館)、99年「VOCA展'99 現代美術の展望―新しい平面の作家たち」(上野の森美術館)、2002年「第1回東山魁夷記念 日経日本画大賞展」(ニューオータニ美術館)、04年「「超」日本画宣言―それは、かつて日本画と呼ばれていた」(練馬区立美術館)、13年「二年後。自然と芸術、そしてレクイエム」(茨城県近代美術館)など、国内外で数多くの展覧会に参加。

■同時開催展覧会

「助教・助手展 2026 武蔵野美術大学助教・助手研究発表」

会場：武蔵野美術大学 美術館展示室2・4・5・6、アトリウム1・2

お問い合わせ先：

武蔵野美術大学 美術館・図書館
東京都小平市小川町 1-736
tel: 042-342-6003 fax: 042-342-6451
<https://mauml.musabi.ac.jp>

美術館広報担当

mail: prmsm@musabi.ac.jp

プレス用図版をご希望の方へ：

- ・下記の注意点を参照の上、ご希望の図版番号と、必要事項をEメールにてお知らせください。
(お名前、ご所属、電話番号、Eメール、媒体名、掲載号、発行予定日、コーナータイトル)
- ・掲載図版が1点のみの場合は図版1.をお送りします。
2点以上の場合は、図版1.+ご希望の図版をお送りします。
- ・指定のクレジットを必ず明記してください。
- ・原則的には図版のトリミング、部分使用、文字載せはご遠慮ください。
- ・掲載内容確認のため、発行前にPDF等でレイアウトをお送りください。
- ・紙媒体は掲載見本のご寄贈(掲載ページのPDF可)、ウェブ媒体は掲載ページのURLお知らせをお願いします。